

ICTニューズレター

手足口病が流行しています。

「手足口病」はおもに幼い子どもがかかり、手や足、それに口の中などに発疹ができるウイルス性の感染症で、まれに脳炎などの重い症状を引き起こすことがあります。



原因

手足口病の原因ウイルスは、大人の手足口病と同様、一種類ではありません。代表的なウイルスとしては、コクサッキーウイルス A16 型やエンテロウイルス 71 型が知られています。

症状

手のひら、足のうらや足の甲、口のなかを中心に米粒大の水疱性の発疹（白っぽい水ぶくれのような発疹）があらわれるのが特徴です。

発疹が、お尻のまわりや脚・腕全体にあらわれることもあります。普通は痛みやかゆみはありませんが、口のなかの水疱がやぶれて口内炎になると痛みがでて、食事や水分がとりにくくなり、脱水症状を起こすことがあります。病気の始まりの頃に微熱を伴うことがありますが、1~2日でたいてい下がります。また水疱も1週間程度で消失します。

治療

手足口病そのものを治す治療薬は存在しないため、基本的には症状を抑えることを目的とした治療が行われます。たとえば、口内の水疱による痛みや、脱水をコントロールするために、薬や点滴による治療が行われることがあります。

予防策

手足口病は、手指や飛沫を介して感染するので、手洗い・手指消毒やうがい、身の回りの消毒が基本的な予防方法となります。